Ⅰ　調査結果の概要

１　平成17年産花きの栽培農家数、作付（収穫）面積及び出荷量の動向

栽培農家数は、切り花類で6万8,900戸、球根類で1,660戸、鉢もの類で9,080戸、花壇用苗もの類で6,900戸となっており、前年産に比べてそれぞれ2,500戸（４％）、160戸（９％）、380戸（４％）、120戸（２％）減少した。

作付（収穫）面積は、切り花類で１万7,910ha、球根類で597ha、鉢もの類で2,145haとなっており、前年産に比べてそれぞれ350ha（２％）、39ha（６％）、50ha（２％）減少したものの、花壇用苗もの類では1,728haと前年産に比べて19ha（１％）増加した。

出荷量は、切り花類で50億2,200万本、球根類で１億7,100万球、鉢もの類で３億1,030万鉢、花壇用苗もの類で８億2,180万本となっており、前年産に比べてそれぞれ8,000万本（２％）、1,330万球（７％）、1,400万鉢（４％）、1,830万本（２％）減少した。

表１　平成17年産花きの類別栽培農家数、作付（収穫）面積及び出荷量

類別	栽培農家数	作付(収穫)面積	出荷量	前年産対比 栽培農家数	前年産対比 作付(収穫)面積	前年産対比 出荷量
	戸	ha	万本(球・鉢)	%	%	%
切り花類	68 900	17 910	502 200	96	98	98
球根類	1 660	597	17 100	91	94	93
鉢もの類	9 080	2 145	31 030	96	98	96
花壇用苗もの類	6 900	1 728	82 180	98	101	98

２　類別・品目別の栽培農家数、作付（収穫）面積及び出荷量の動向

(1)　切り花類

栽培農家数は6万8,900戸で、前年産に比べて2,500戸（４％）減少した。

作付面積は１万7,910haで、前年産に比べて350ha（２％）減少した。品目別にみると、切り葉、ガーベラが増加したが、切り枝、ばら、宿根かすみそう等が減少した。

出荷量は50億2,200万本で、前年産に比べて8,000万本（２％）減少した。

なお、品目別にみた出荷量の構成割合は、きくが37％で最も高く、次いでカーネーションが9％、ばらが8％の順となっている。

図１　切り花類の品目別出荷量割合

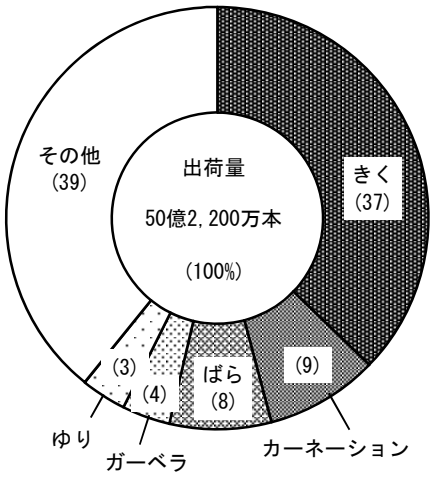


表２　平成17年産切り花類の栽培農家数、作付面積及び出荷量

品目	栽培農家数	作付面積	出荷量	前年産対比 栽培農家数	前年産対比 作付面積	前年産対比 出荷量	(参考)１戸当たり 作付面積	(参考)１戸当たり 出荷量
	戸	ha	万本	%	%	%	㎡	本
切り花類	68 900	17 910	502 200	96	98	98	2 600	72 900
うち、きく	…	5 815	186 900	…	100	100	…	…
輪ぎく	10 000	3 261	105 700	94	99	99	3 260	105 700
スプレイぎく	3 660	817	28 710	94	103	104	2 230	78 400
小ぎく	12 100	1 736	52 450	95	100	100	1 430	43 300
カーネーション	2 460	450	43 500	96	96	96	1 830	176 800
ばら	1 810	508	39 070	96	95	96	2 810	215 900
りんどう	2 300	502	8 930	99	99	99	2 180	38 800
宿根かすみそう	1 700	295	6 750	93	91	95	1 740	39 700
洋ラン類	1 190	195	2 390	96	98	93	1 640	20 100
スターチス	2 840	248	12 490	92	99	102	873	44 000
ガーベラ	513	106	18 490	96	101	101	2 070	360 400
トルコギキョウ	4 950	455	11 960	98	98	102	919	24 200
ゆり	4 350	841	17 400	93	98	97	1 930	40 000
チューリップ	796	81	7 200	93	92	97	1 010	90 500
アルストロメリア	724	103	6 830	98	100	98	1 420	94 300
切り葉	3 890	715	16 310	97	101	95	1 840	41 900
切り枝	16 000	4 183	25 620	98	97	101	2 610	16 000

注：　きくの作付面積及び出荷量は、輪ぎく、スプレイぎく及び小ぎくの合計値である。なお、きくの栽培農家数（実戸数）については調査していない。

図２　切り花類の作付面積と出荷量の推移

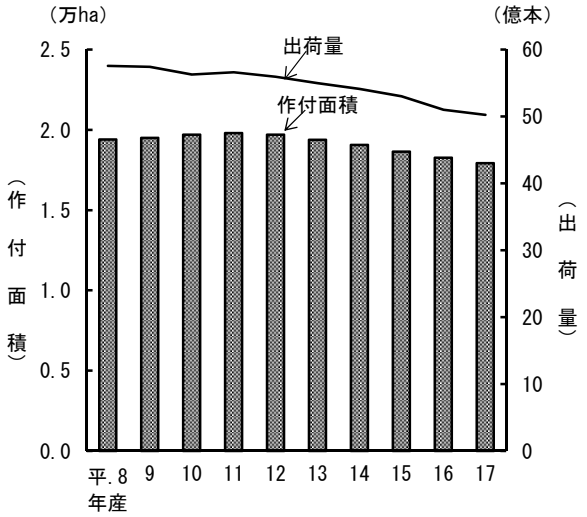
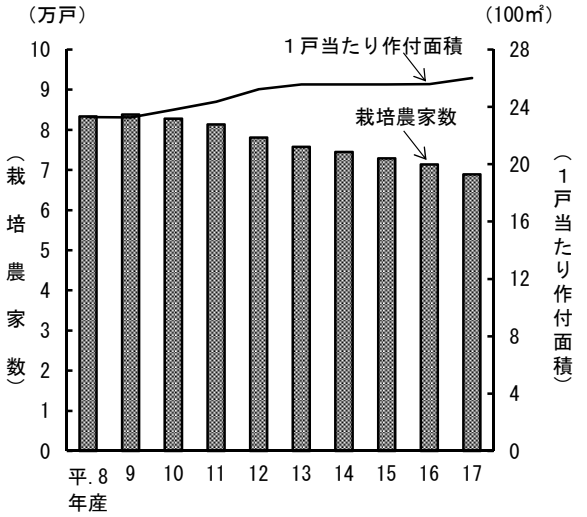


図３　切り花類の栽培農家数等の推移



ア　き　く

作付面積は5,815ha、出荷量は18億6,900万本で、いずれも前年産並みであった。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、愛知県が29％で最も高く、次いで沖縄県が16％、鹿児島県が８％の順となっている。

また、品目別にみた出荷量の構成割合は、輪ぎくが57％で最も高く、次いで小ぎくが28％、スプレイぎくが15％の順となっている。

品目別の栽培農家数及び作付面積をみると、栽培農家数はいずれの品目も減少しているが、作付面積はスプレイぎくが増加したほか、輪ぎく及び小ぎくも前年産並みとなった。これは、小規模農家の栽培中止等があったものの規模拡大する農家もみられたためである。

図４　きくの都道府県別出荷量割合

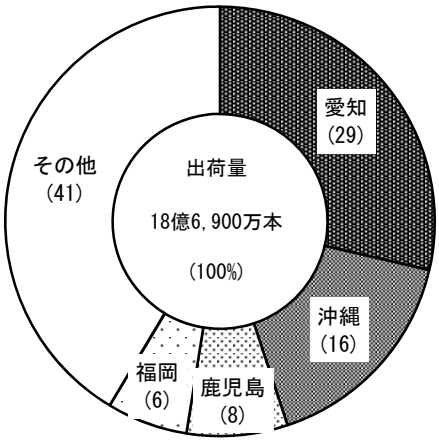


図５　きくの品目別出荷量割合

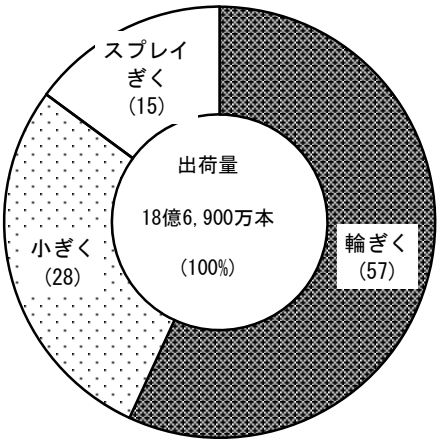


図６　きくの作付面積と出荷量の推移

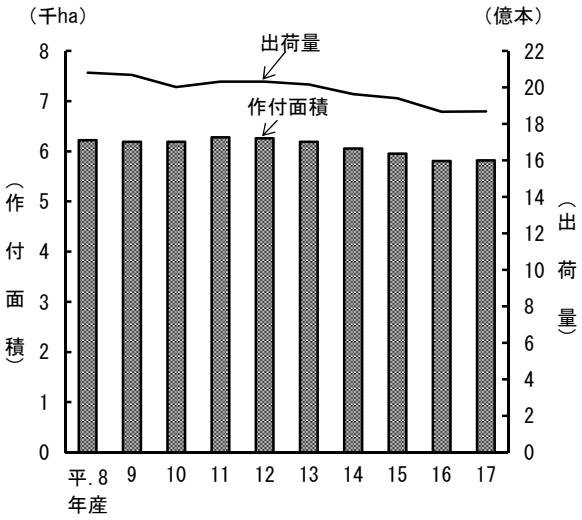


図７　輪ぎくの栽培農家数等の推移

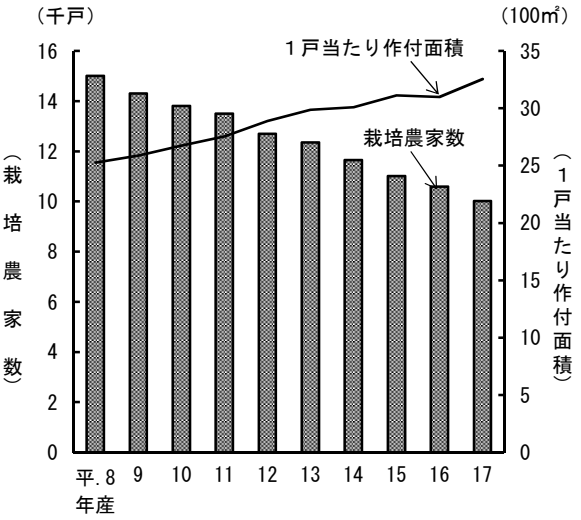


図８　スプレイぎくの栽培農家数等の推移

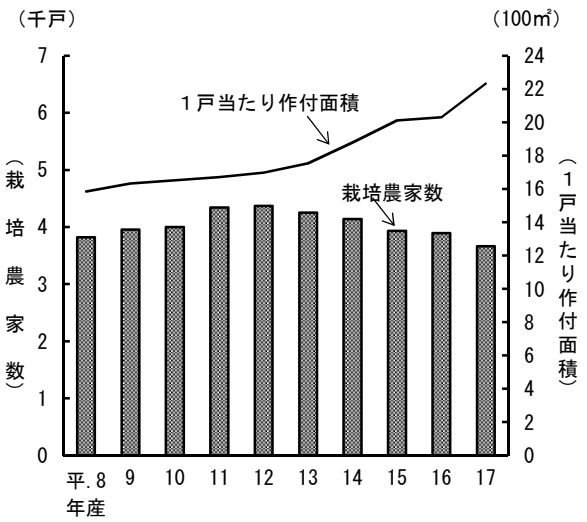
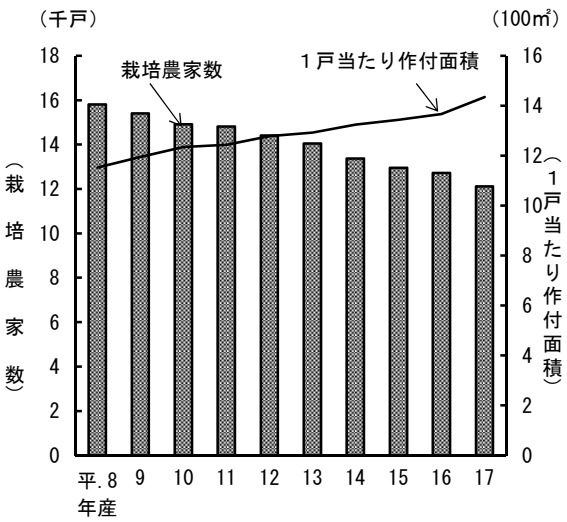


図９　小ぎくの栽培農家数等の推移



イ　カーネーション

栽培農家数は2,460戸で、前年産に比べて90戸（４％）減少した。

作付面積は450haで、前年産に比べて21ha（４％）減少した。これは、長野県、北海道等で規模縮小等があったためである。

出荷量は４億3,500万本で、前年産に比べて1,710万本（４％）減少した。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、長野県が21％で最も高く、次いで愛知県が16％、兵庫県が11％の順となっている。

図10　カーネーションの都道府県別出荷量割合

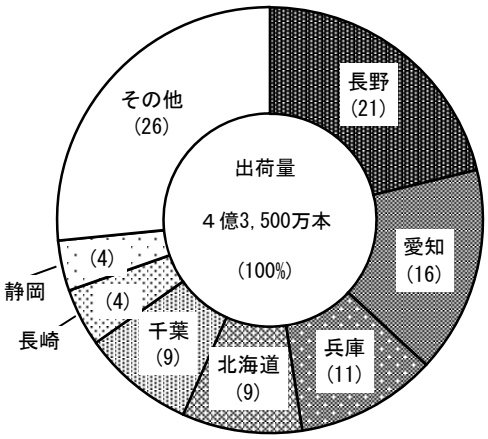


図11　カーネーションの作付面積と出荷量の推移

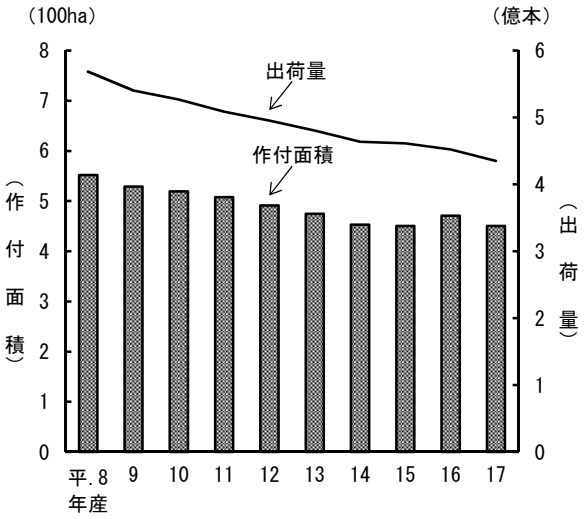
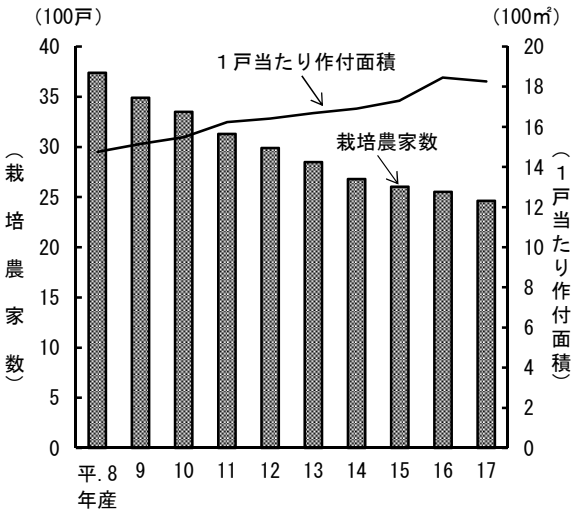


図12　カーネーションの栽培農家数等の推移



ウ　ば　ら

栽培農家数は1,810戸で、前年産に比べて70戸（４％）減少した。

作付面積は508haで、前年産に比べて27ha（５％）減少した。これは、静岡県等で栽培農家の減少等があったためである。

出荷量は３億9,070万本で、前年産に比べて1,580万本（４％）減少した。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、愛知県が15％で最も高く、次いで静岡県が10％、福岡県が７％の順となっている。

図13　ばらの都道府県別出荷量割合

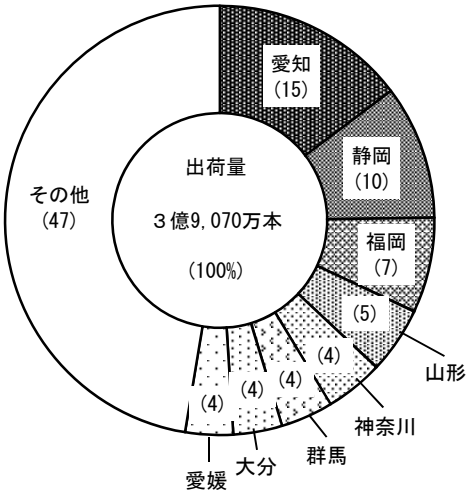


図14　ばらの作付面積と出荷量の推移

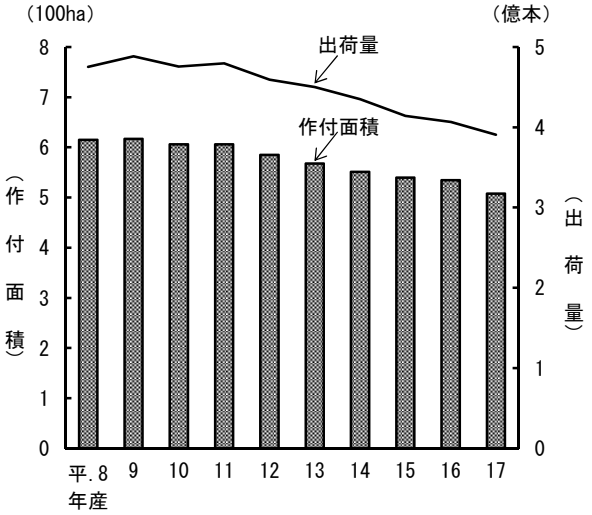
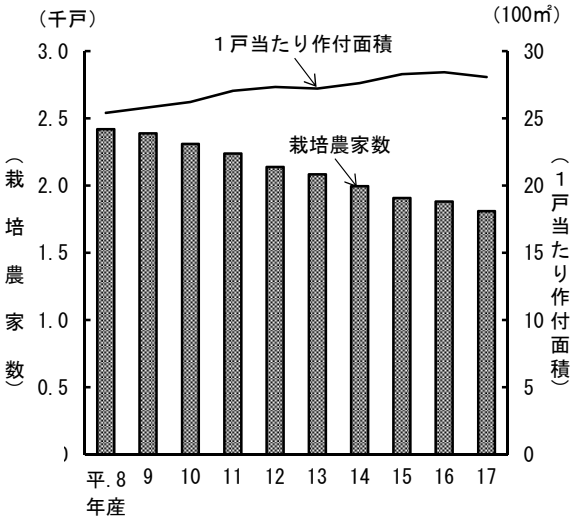


図15　ばらの栽培農家数等の推移



エ　ゆ　り

栽培農家数は4,350戸で、前年産に比べて310戸（７％）減少した。

作付面積は841haで、前年産に比べて18ha（２％）減少した。これは、長野県、岩手県等で栽培農家の減少等があったためである。

出荷量は１億7,400万本で、前年産に比べて520万本（３％）減少した。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、埼玉県が15％で最も高く、次いで高知県が11％、新潟県が10％の順となっている。

図16　ゆりの都道府県別出荷量割合

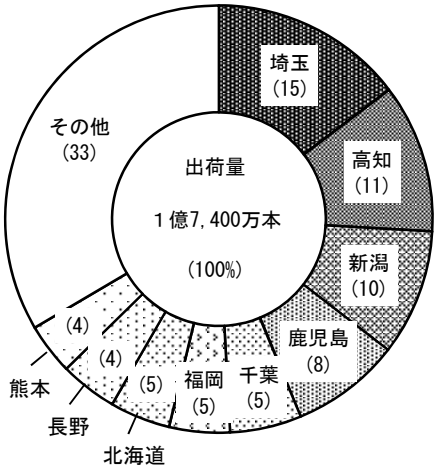


図17　ゆりの作付面積と出荷量の推移

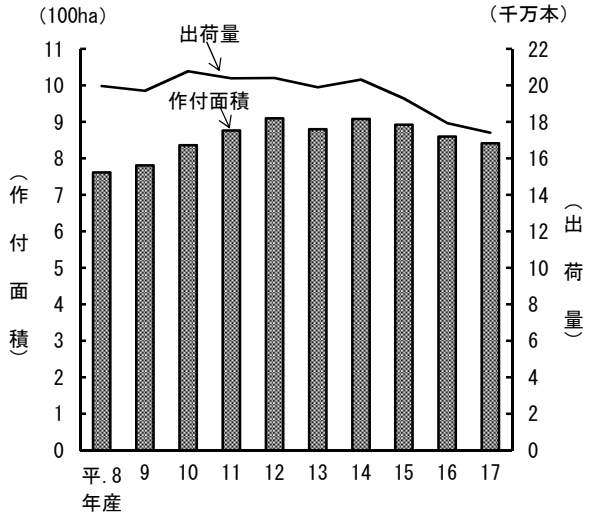
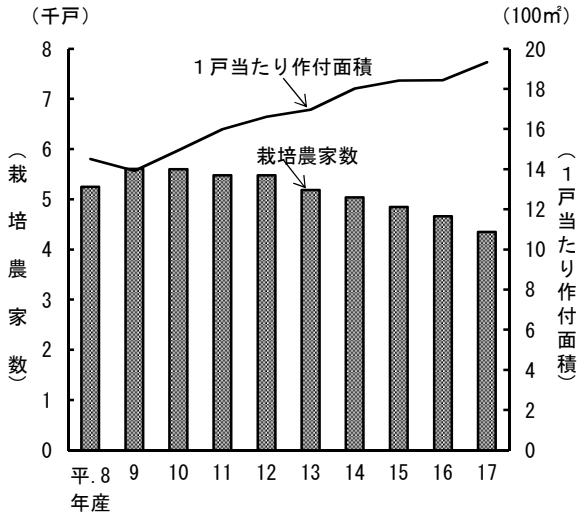


図18　ゆりの栽培農家数等の推移



(2)　球根類

栽培農家数は1,660戸で、前年産に比べて160戸（９％）減少した。

収穫面積は597haで、前年産に比べて39ha（６％）減少した。品目別にみると、チューリップ、グラジオラス、フリージア及びゆりが減少した。

出荷量は１億7,100万球で、前年産に比べて1,330万球（７％）減少した。

表３　平成17年産球根類の栽培農家数、収穫面積及び出荷量

品目	栽培農家数	収穫面積	出荷量	前年産対比 栽培農家数	前年産対比 収穫面積	前年産対比 出荷量	(参考)１戸当たり 収穫面積	(参考)１戸当たり 出荷量
	戸	ha	万球	%	%	%	㎡	球
球根類	1 660	597	17 100	91	94	93	3 600	103 000
うち、ゆり	422	100	1 340	91	95	83	2 370	31 800
チューリップ	464	282	5 350	93	97	97	6 080	115 300
グラジオラス	196	29	2 700	79	78	92	1 460	137 800
フリージア	93	32	2 610	76	85	80	3 460	280 600

図19　球根類の収穫面積と出荷量の推移

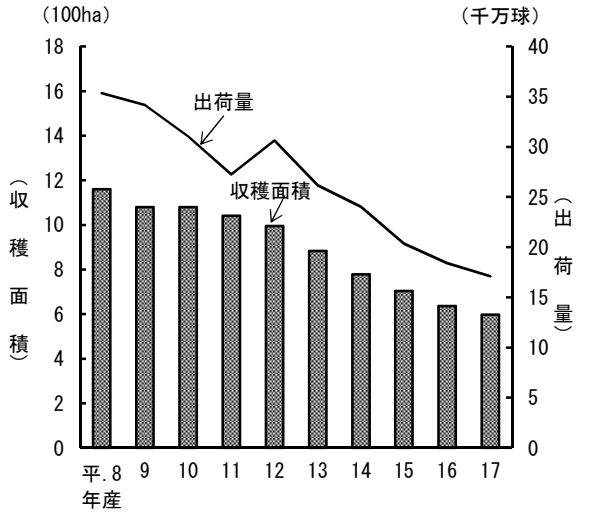
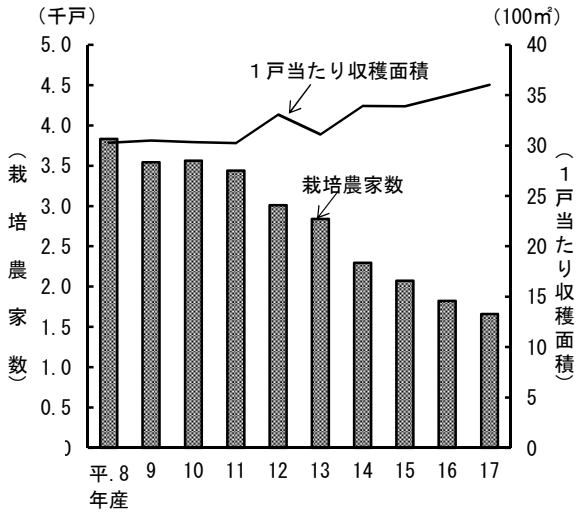


図20　球根類の栽培農家数等の推移



ア　ゆ　り

栽培農家数は422戸で、前年産に比べて42戸（９％）減少した。

収穫面積は100haで、前年産に比べて５ha（５％）減少した。これは、新潟県で栽培農家の減少等があったためである。

出荷量は1,340万球で、前年産に比べて280万球（17％）減少した。これは、収穫面積の減少に加え、鹿児島県で収穫期の多雨による品質低下等があったためである。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、鹿児島県が50％で最も高く、次いで新潟県が30％の順となっている。

図21　ゆりの都道府県別出荷量割合

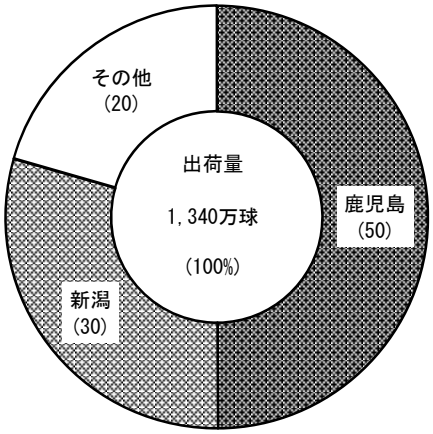


図22　ゆりの収穫面積と出荷量の推移

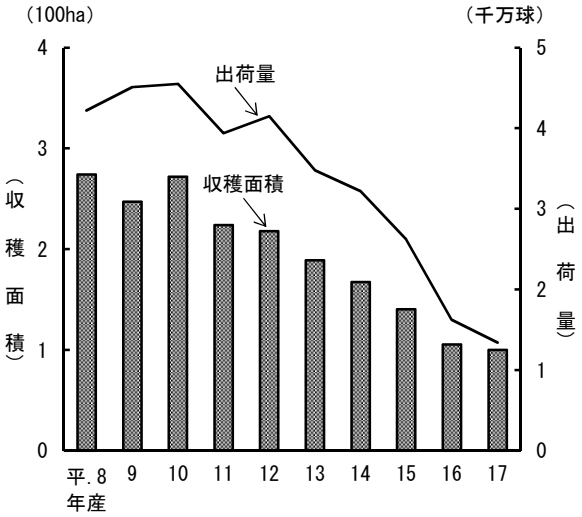
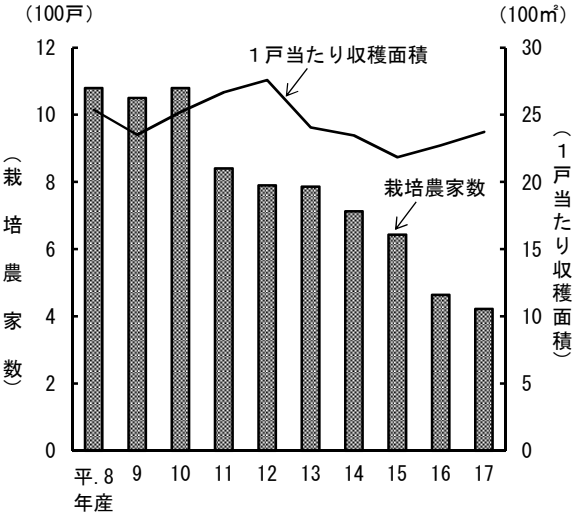


図23　ゆりの栽培農家数等の推移



イ　チューリップ

栽培農家数は464戸で、前年産に比べて36戸（７％）減少した。

収穫面積は282haで、前年産に比べて９ha（３％）減少した。これは、富山県で栽培農家の減少等があったためである。

出荷量は5,350万球で、前年産に比べて180万球（３％）減少した。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、富山県が51％で最も高く、次いで新潟県が47％の順となっており、この２県で全国の98％を占めている。

図24　チューリップの都道府県別出荷量割合

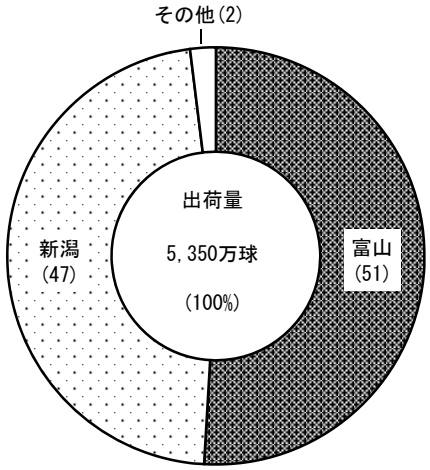


図25　チューリップの収穫面積と出荷量の推移

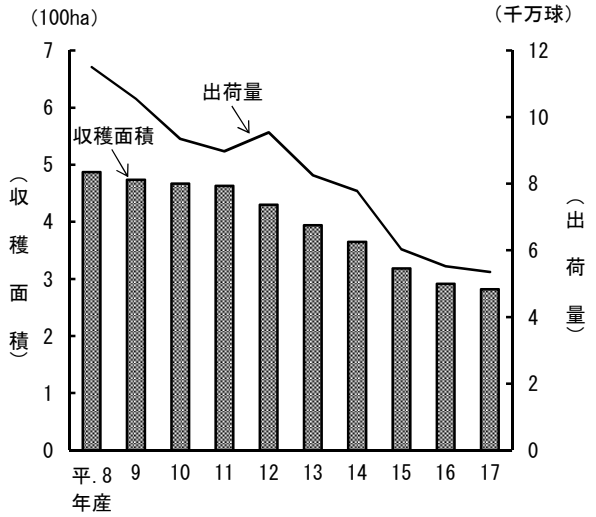
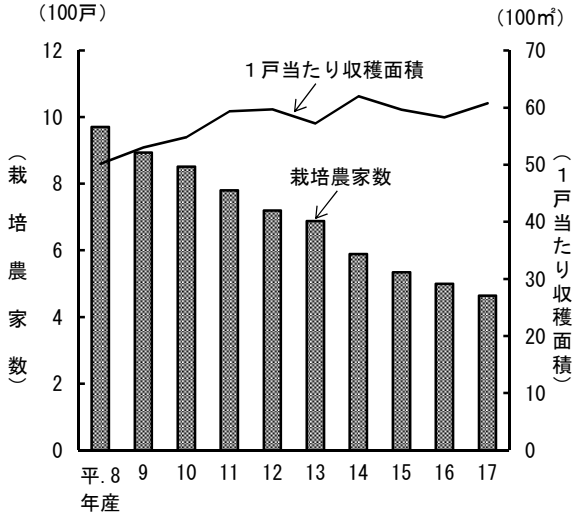


図26　チューリップの栽培農家数等の推移



(3)　鉢もの類

栽培農家数は9,080戸で、前年産に比べて380戸（４％）減少した。

収穫面積は2,145haで、前年産に比べて50ha（２％）減少した。品目別にみると、花木類及びベゴニア類が増加したが、洋ラン類、サボテン及び多肉植物、観葉植物等が減少した。

出荷量は３億1,030万鉢で、前年産に比べて1,400万鉢（４％）減少した。

表４　平成17年産鉢もの類の栽培農家数、収穫面積及び出荷量

品目	栽培農家数	収穫面積	出荷量	前年産対比 栽培農家数	前年産対比 収穫面積	前年産対比 出荷量	(参考)１戸当たり 収穫面積	(参考)１戸当たり 出荷量
	戸	ha	万鉢	%	%	%	㎡	鉢
鉢もの類	9 080	2 145	31 030	96	98	96	2 360	34 200
うち、シクラメン	1 790	235	2 220	98	98	98	1 310	12 400
プリムラ類	901	63	1 410	94	95	92	701	15 600
ベゴニア類	365	32	564	108	104	102	885	15 500
洋ラン類	…	278	2 010	…	96	92	…	…
シンビジウム	517	100	345	95	95	90	1 930	6 670
デンドロビウム	243	29	280	93	93	89	1 210	11 500
ファレノプシス	412	71	658	101	110	116	1 720	16 000
その他の洋ラン類	732	78	725	90	86	79	1 060	9 900
サボテン及び多肉植物	405	63	2 020	97	90	86	1 550	49 900
観葉植物	1 620	361	5 760	96	99	97	2 230	35 600
花木類	2 760	461	5 540	98	102	98	1 670	20 100

注：　洋ラン類の収穫面積及び出荷量は、シンビジウム、デンドロビウム、ファレノプシス及びその他の洋ラン類の合計値である。なお、洋ラン類の栽培農家数（実戸数）については調査していない。

図27　鉢もの類の収穫面積と出荷量の推移

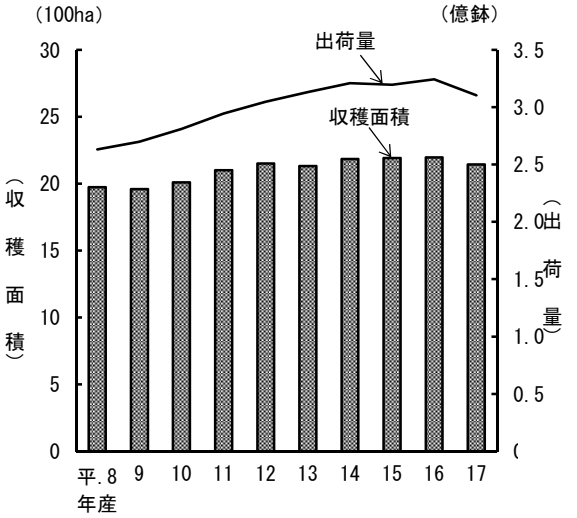
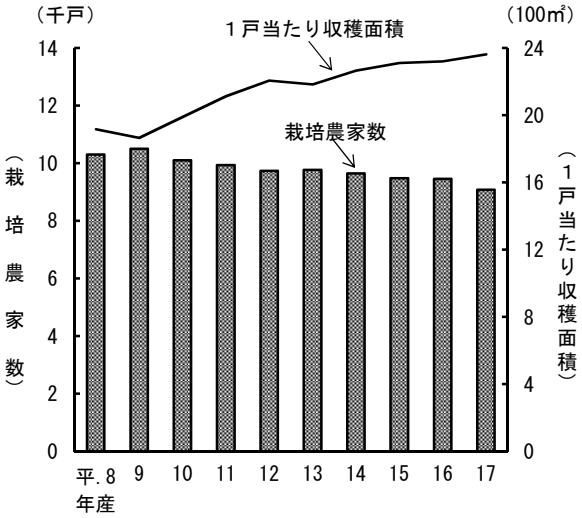


図28　鉢もの類の栽培農家数等の推移



ア　シクラメン

栽培農家数は1,790戸で、前年産に比べて40戸（２％）減少した。

収穫面積は235haで、前年産に比べて４ha（２％）減少した。これは、愛知県で規模縮小があったためである。

出荷量は2,220万鉢で、前年産に比べて40万鉢（２％）減少した。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、愛知県が13％で最も高く、次いで長野県が12％の順となっている。

図29　シクラメンの都道府県別出荷量割合

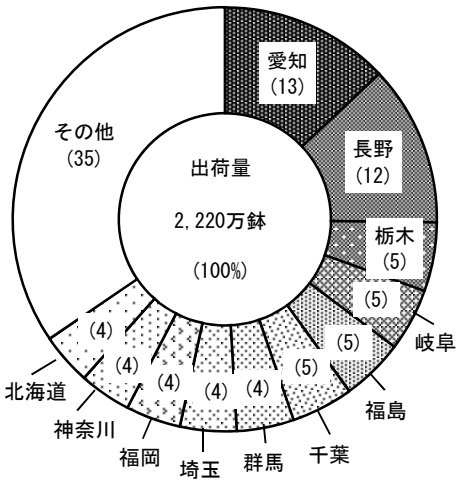


図30　シクラメンの収穫面積と出荷量の推移

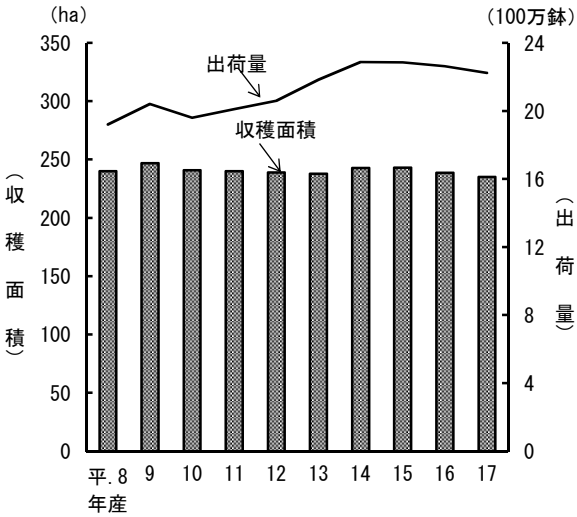
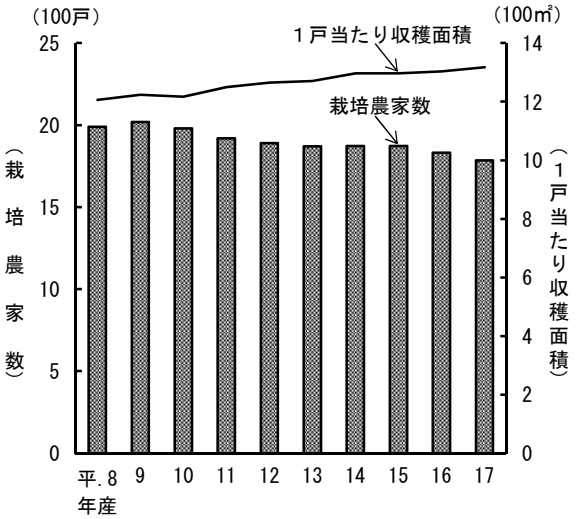


図31　シクラメンの栽培農家数等の推移



イ　洋ラン類

収穫面積は278haで、前年産に比べて13ha（４％）減少した。これは、福岡県、愛知県等で栽培農家の減少等があったためである。

出荷量は2,010万鉢で、前年産に比べて170万鉢（８％）減少した。これは、収穫面積の減少に加え、福岡県等で大鉢化による単位面積当たり栽培鉢数の減少等があったためである。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、愛知県が31％で最も高く、次いで福岡県が10％、静岡県及び埼玉県が５％の順となっている。

また、品目別にみた出荷量の構成割合は、ファレノプシスが33％、シンビジウムが17％、デンドロビウムが14％となっている。

図32　洋ラン類の収穫面積と出荷量の推移

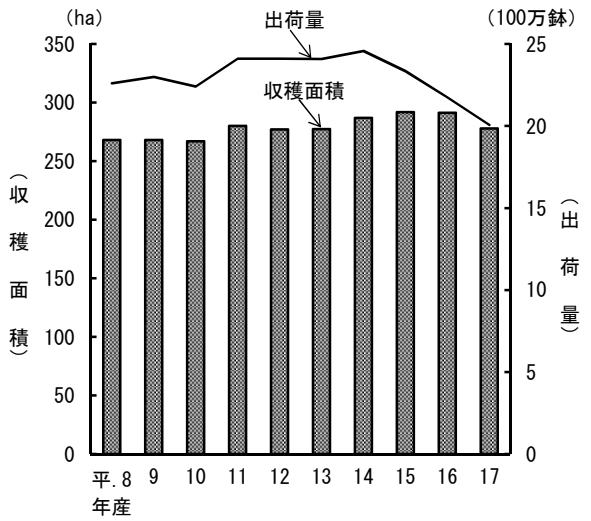


図33　洋ラン類の都道府県別出荷量割合

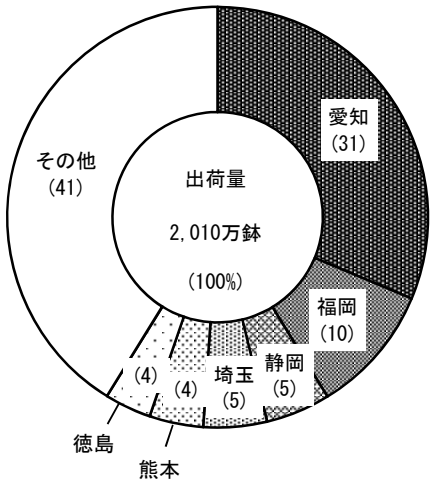


図34　シンビジウムの栽培農家数等の推移

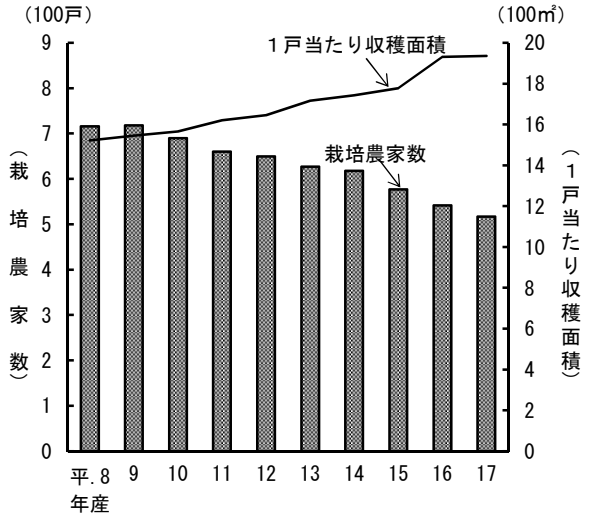
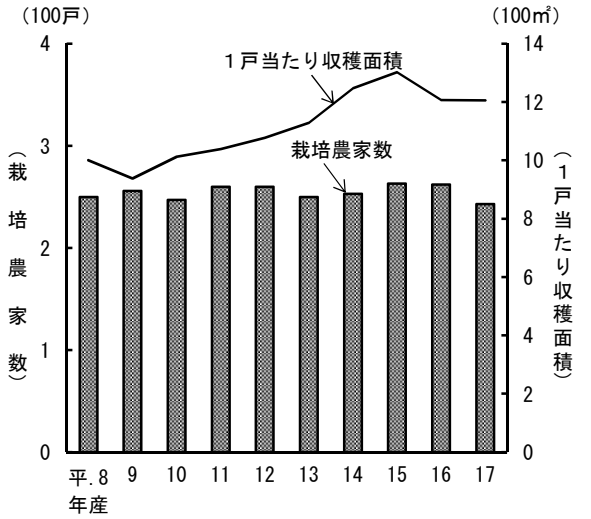


図35　デンドロビウムの栽培農家数等の推移



(4)　花壇用苗もの類

栽培農家数は6,900戸で、前年産に比べて120戸（２％）減少した。

作付面積は1,728haで、前年産に比べて19ha（１％）増加した。品目別にみると、サルビア及びパンジーが減少したが、にちにちそう、ペチュニア及びマリーゴールドが増加した。

出荷量は８億2,180万本で、前年産に比べて1,830万本（２％）減少した。

表５　平成17年産花壇用苗もの類の栽培農家数、作付面積及び出荷量

品目	栽培農家数	作付面積	出荷量	前年産対比 栽培農家数	前年産対比 作付面積	前年産対比 出荷量	(参考)１戸当たり 作付面積	(参考)１戸当たり 出荷量
	戸	ha	万本	%	%	%	㎡	本
花壇用苗もの類	6 900	1 728	82 180	98	101	98	2 500	119 100
うち、パンジー	3 790	353	19 340	96	99	96	931	51 000
サルビア	2 130	63	2 670	95	94	92	294	12 500
マリーゴールド	2 370	89	3 750	96	101	99	375	15 800
ペチュニア	2 180	116	5 730	97	102	103	532	26 300
にちにちそう	1 090	39	1 650	115	113	104	353	15 100

図36　花壇用苗もの類の作付面積と出荷量の推移

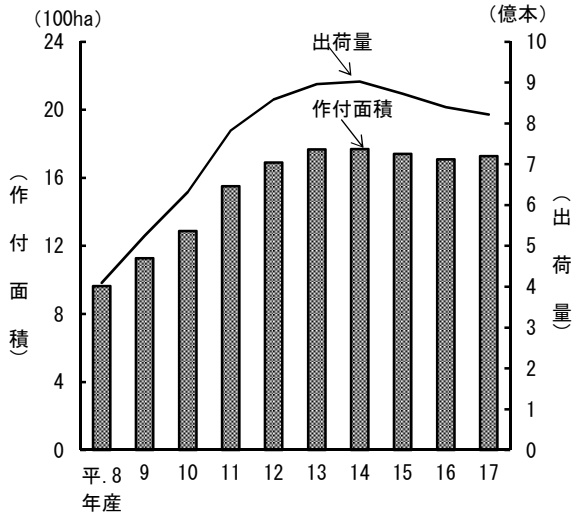
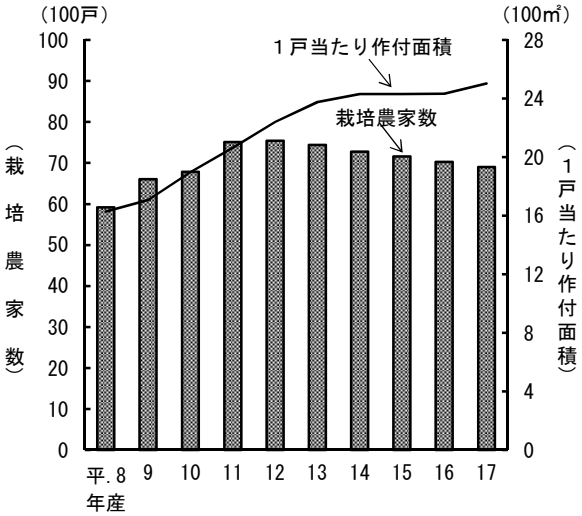


図37　花壇用苗もの類の栽培農家数等の推移



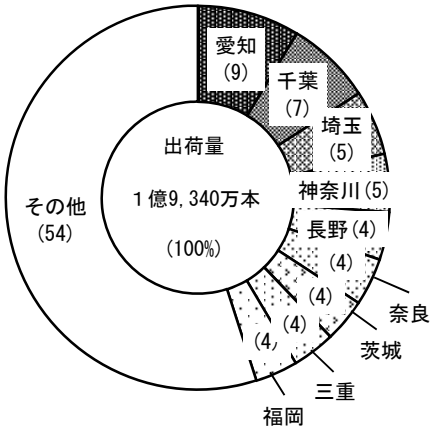
ア　パンジー

栽培農家数は3,790戸で、前年産に比べて150戸（４％）減少した。

作付面積は353haで、前年産に比べて３ha（１％）減少した。これは、愛知県、福島県等で他作物や他品目への転換等があったためである。

出荷量は１億9,340万本で、前年産に比べて910万本（４％）減少した。これは、作付面積の減少に加え、平成17年11月以降の低温による生育不良等があったためである。

図38　パンジーの都道府県別出荷量割合



なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、愛知県が９％で最も高く、次いで千葉県が７％、埼玉県及び神奈川県が５％の順となっている。

図39　パンジーの作付面積と出荷量の推移

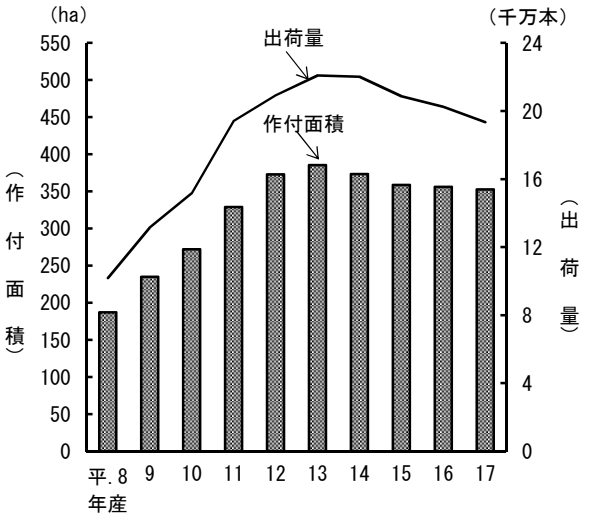
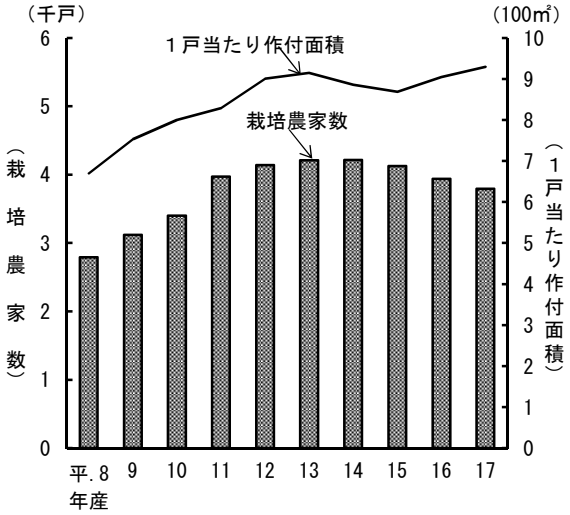


図40　パンジーの栽培農家数等の推移



イ　ペチュニア

栽培農家数は2,180戸で、前年産に比べて60戸（３％）減少した。

作付面積は116haで、前年産に比べて２ha（２％）増加した。これは、埼玉県等で規模拡大等があったためである。

出荷量は5,730万本で、前年産に比べて150万本（３％）増加した。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、千葉県が19％で最も高く、次いで埼玉県が７％、兵庫県及び愛知県が５％の順となっている。

図41　ペチュニアの都道府県別出荷量割合

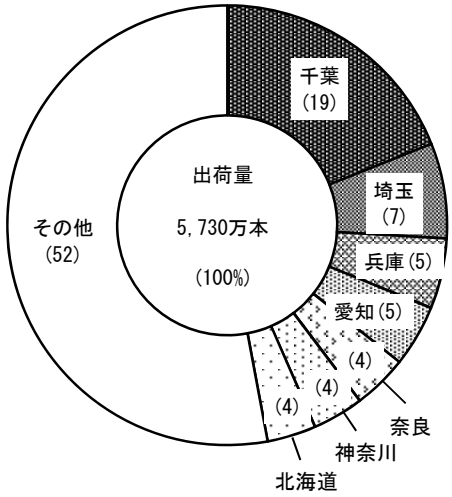


図42　ペチュニアの作付面積と出荷量の推移

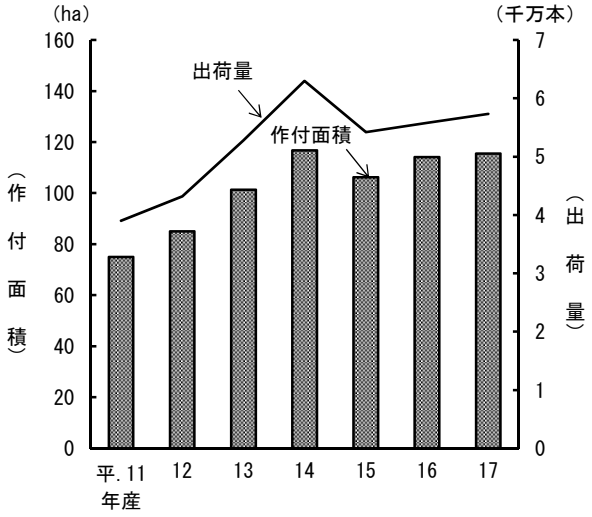
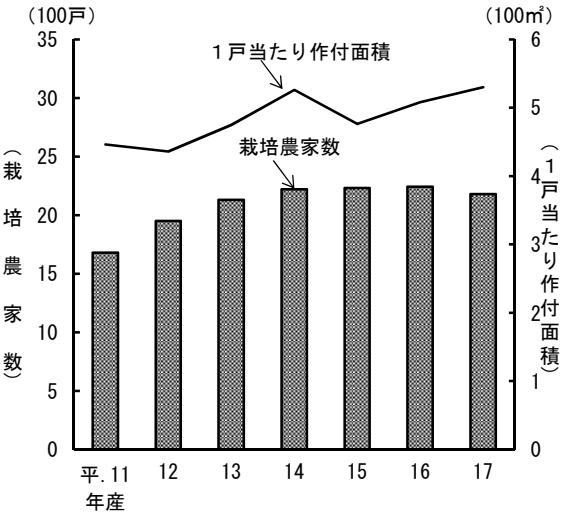



図43　ペチュニアの栽培農家数等の推移